

宝小学校だより

# ななさと

宝小学校学校だより  
NO22

平成28年2月4日(木)  
文責 小俣 一夫

## 心の知能指数の高い子どもに育てよう！

「人が胸を張って、堂々と生きていくために必要なものは何ですか？」と問われたら、私は、その一つには「自信」というものがあると思います。人にとって「自信」は何ものにも代え難いエネルギーとなり、根本では「ヤル気」につながる大切な財産でもあると思っています。「自信」は、自分の心の中に作るものです。そして、自分で感じるものであって、人に認めてもらうものではないはず。ましてや、友だちと比較するものでは、決してありません。

しかし、人はとても弱い存在ですので、つい他人と比べて自信をなくし、大きな不安に襲われてしまうのです。反対に人と比べて自己満足という自信を持つこともあるのかもしれませんが。

そのため、ほんの少しでも他人に認めてほしいと考え、認められると安心できるのです。ましてや、それが子どもであれば、余計にそう思う心が強いのではないのでしょうか。大人は、これまでに何度も自信をなくすような経験をしてきていますから、きっと、子どものこんな気持ちにうなずけるはず。そして、自信を持つようとしている子どもたちの願いに応え、心の中にある「ヤル気スイッチ」を押すのが親の役割になると思います。いつも肯定的（良い部分を認めていくことによって、悪い部分が薄くなっていきます。）にわが子を見ていけば、きっとキラキラ輝く目に変わっていくのではないのでしょうか。当然ながら、一つのことを辛抱強く続けていくことは間違いなく自信につながっていくはず。

もちろん親ですから、「わが子が一番！」と考えるのは当たり前であり、親なら誰しもがそう思っていると思います。だからこそ、わが子の言動が多くの人に認められるためには、多くの人に人の目にさらされること必要だと思います。人の目にさらされれば、注意もされます。叱られもします。批判を受けることもあるかもしれませんが、そんな言動を通して、わが子は人の心に残り、存在感が生まれ、気にかけてもらえる人間へと成長していくのです。多くの人の中でもまれることによって、たくましくもなっていくはず。つまり、人は多くの人の中で生きていくことが非常に大切なのです。

ある雑誌の1996年2月2日放送『徹子の部屋』での話から、こんなエピソードを読みました。女優の「沢村貞子さん」の小学校二年生の頃の思い出だそうです。

沢村さんが、ある時、優秀な成績の通信簿を持って、喜び勇んで家に帰ってきました。先生にも「特別、良くできた。」とほめられたことを母に得意げに報告しました。すると、お母さんからは、「そうかい」と言うだけで、一言のほめ言葉もなかったそうです。沢村さんは、「できない子だって大勢いるのよ。左官屋の初ちゃんなんか、算数ができなくて先生に叱られて・・・」とそのまま言うと、お母さんは沢村さんにこう言ったそうです。「つまらないことをお言いでない。人間、学校の勉強さえできれば、それでいいってわけじゃないだろう。初ちゃんは算数は苦手かもしれないけれど、弟たちの面倒をよく見るし、ご飯の支度だってお前より上手だよ。人それぞれみんな、いいところがあるんだからね。先生にほめられたぐらいで、特別だなんて、いい気になるんじゃないよ。」

お母さんは、いい成績がとれなかったといって叱ったのではなく、いい成績を自慢したことを叱ったのです。自分の自慢をするより、少しでも人のいいところを見る。自分中心ではなく、相手の身になる。人に迷惑をかけないように気を配る。下町育ちの母は、このようにわが子をしつけようとしたのではなかったのでしょうか。大正時代の話ではありますが、この母の考え方は、現在にも通じる話です。つまり、沢村さんのお母さんは、「心の知能指数」を大切にされた人だったのではないのでしょうか。

ぜひ、子どもたちに対して、日常の子育てを通して、「心の知能指数」を高めてほしいと思います。我が家では、趣味で野菜を育てています。ほうれん草にも大きいやつもあれば、小さいやつもあります。色が濃いやつもあれば、薄いやつもあります。そんなほうれん草に共通していることは、どれも堂々としているように見えることです。たぶん、ほうれん草は認められたいなんて決して考えないと思います。だから、野菜の中でも栄養価の高い立派な存在として認められるのではないのでしょうか。

自分の生き方に自信を持って、堂々と生きていけたらどんなにか、自信が持てることでしょう！



## キャリア教育 5・6年生 Part3

### UTYアナウンサー

# 黒澤知弘さん

1月26日(火)4校時に5・6年生を対象に人生の先輩を招いて、キャリア教育 Part 3を行いました。  
”働く人から学ぼう！”「働く人との出会い そして自分のこれから」

と題して夢の実現やこれまでの経験から学んだことについてのお話を伺いました。

今年度、第3回目のキャリア教育は、UTYのアナウンサー黒澤知弘さんでした。

黒澤さんは、現在UTYの夕方の番組「ウッティタイム6丁目」のメインキャスターを努めており、スポーツ中継や特番のリポーター、情報番組の司会等々・・・まさにUTYの星として、キラキラと輝いているアナウンサーです。何と言っても「笑顔」がさわやかで、とても好感の持てるイケメンでした。

講演の中で、黒澤さんが日々の生活の中で大切にしていることを、こんな言葉で話してくれました。「向き不向きより、前向き！」これは、困難に当たったときに、自分にはこんなことができないんじゃないか？向いてないんじゃないか？・・・などと考えるより、目標に向かって進むことが大事であり、できる、できないなんて考える前に、先ずやってみることが大事なんだという意味だそうです。

黒澤さんがアナウンサーになろうと思ったきっかけは、野球に明け暮れた学生時代を経験しているので、仕事を通してスポーツに関わりたかった。また、人が好きだから、出会いがあったり、人と話ができる職業に就きたかったと話してくれました。

アナウンサーになるためには、特に自動車の免許証みたいな資格があるわけではなく、4年制の大学を出ていけばいいそうです。ただ、人と話をするのが好きな人という条件はあります。また、人に好印象を与えるような笑顔であったり爽やかさというような見た目も大事になってきます。僕のようなイケメンは最低条件です？・・・というところで、残念ながら子どもたちからは（笑）が起きず、「ここは笑うところだよ！」「笑ってもいいんだよ」と言われるほど、子どもたちは真剣に話を聞いていました。

講演の途中で、アナウンサーに必要な早口言葉や発声の練習もしました。  
○「カエルびよこびよこみびよこびよこ・・・」 「きやーりばみゅばみゅ」×3回  
また、アナウンサーという仕事についてこんなふうに話してくれました。

大勢のスタッフみんなで協力して一つの番組を作り上げたときには、やり終えた満足感と充実感を得ることができます。さらに、日々の仕事の中で多くの人と出会うことができ、人との温かさや出会った人々からたくさんのお話を学ぶことができるのが、アナウンサーという仕事だから得られるやり甲斐だと思います。こんな話を終始笑顔で、優しく子どもたちに話して下さいました。

さらに今の小学生に望むことは「後で後悔しないように、今、小学生の時だからこそできることを一生懸命にやってほしい」と話してくれました。さらに、あいさつや笑顔という生活の基本的なことをしっかりと身につけてほしいとも話して下さいました。

最後に、子どもたちの、「今年の目標を漢字一字にたとえると・・・」という質問に対して、「顔」と答えてくれました。その理由は、ウッティタイム6丁目の司会を任されたこともあり、UTYのアナウンサーとして自分の仕事によりいっそう責任を持ち、将来はUTYの顔として活躍できるように成長したい、という意味を込めてこの字を選んだそうです。やっぱりイケメンは話も爽やかでした。



TVカメラ操作の体験をする嵐くん



子どもたちに語る黒澤ア+



青木アナウンサーからインタビューを受ける汐音さん



黒澤アナウンサーを囲んで全員集合 「ハイ！6丁目」